



利根中央病院だより

第54号
2020年 新年号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL: 0278-22-4321 (代表)
FAX: 0278-22-4393
URL: <http://www.tonehoken.or.jp/>

年頭挨拶

新春のお慶びを申し上げます。

干支の頭である子年にちなんで気持ちも新たに実りの多い年になりますようにお祈りいたします。

昨年は厚生労働省から医師の働き方改革の推進を求められ、再編検討を要する公立・公的病院として424病院の実名が発表されました。そして、来年度の診療報酬改定は-0.45%のマイナス改定になりました。厳しい情勢ではありますが、沼田利根医師会長藤塚先生の「one

院長 大塚 隆幸



team」の言葉通りに地域医療が成り立つように御協力申し上げたいと思います。

病院をはじめ利根保健生協の各事業所職員一同、一層の努力をいたしますので医師会諸先生方及び関係者の皆様には引き続き暖かい御指導、御鞭撻を賜りますれば幸いに存じます。

今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

子年の年男・年女からご挨拶

外科医師 浦部 貴史



新年を迎えまして皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年の子年となり、私は年男となりました。この節目の年にさらなる飛躍を目指し、地域の皆様のお役にになれるように尽力していきます。今年も宜しくお願いします。

看護補助者 相ノ山 淳子



明けましておめでとうございます。「今年も頑張るぞ！」と心に誓い、心身ともに健康に「ありがとう」の言葉を心がける、こまめな野ネズミです。1日10善を目指します。

HCU・3A病棟看護師長 柴崎 芳光



明けましておめでとうございます。昨年は個人的にいろいろ環境が変わり目まぐるしい1年でしたが多くの方々を支えられて無事過ごすことができました。

世界平和が目標なので、今年も平和に過ごせる事を願っています。

臨床検査技師 小倉奈那子



明けましておめでとうございます。入職してからの9ヶ月はあっという間に過ぎました。先輩方にお世話になりながら、少しずつですが、仕事を覚えてきています。

今年も年女になりますが、初心を忘れずに、日々努力していきたいと思っています。

外科診療体制について



外科医長 高田 考大

本年度の利根中央病院外科は医師5名の体制で診療を行っており、一般外科から消化器・呼吸器・乳腺の専門的領域まで幅広く診療を行っています。

特に下部消化管外科において腹腔鏡手術の適応を広げており、進行癌についても他臓器合併切除の必要がある症例等腹腔鏡手術が困難である場合を除き、基本的には腹腔鏡で手術を行う方針としています。腹腔鏡手術のメリットとしては低侵襲で整容性に優れる事が挙げられ、短期合併症についても開腹手術に対して有利であるとされています。一方で手術操作自体の技術的困難さや手術時間の延長がデメ

リットとしてあります。現在、当院では難度が高いとされる直腸や横行結腸についても腹腔鏡下での郭清を伴う根治手術を行っています。手術時間についてはまだ改善の余地がありますが、チームとしての習熟度は上がっており、今後はさらに症例を増やしていければと考えています。

年々増加する大腸癌に対応するため、初診からの診断・治療開始までの期間をなるべく短くするよう検査体制などの検討を行っています。また治療方針に苦慮する症例については大学病院とも連携をとり適切な治療が行えるよう配慮しています。

▼手術の様子

カメラで見ながら開腹手術と同等の操作を腹腔内で行います



▲腹腔鏡手術直後のおなか
傷が小さく術後の痛みが少なくすみます

台風19号による長野水害でのDMAT派遣

2019年10月12日に上陸した台風19号により千曲川が長野市内で氾濫しました。賛育会クリニックおよび介護施設が1階部分の浸水により機能停止となり、14日から入院患者の避難が開始されました。同日、群馬県にDMAT派遣要請がなされ、当院は医師2名・看護師1名・調整員2名で、他に群馬県内の3病院のDMATが長野市へ向け出発しました。



15日～16日にかけて総数105名の入院患者が他施設に搬送されましたが、当院は搬出を管理する搬出管理班と実搬送班に分かれて活動を行いました。搬送患者の容体は比較的安定していましたが、通信電波状況や道路状況も悪く、地理に疎い外部組織による搬送はより時間を要しました。



災害訓練

当院では災害訓練を2007年より開催しています。例年土曜日の午後に多数傷病者受入れを中心と



災害対策本部

した訓練でしたが、BCP（事業継続計画）の策定に伴い日曜日一日がかりの訓練としました。

午前は発災とともに災害対策本部構成員による本部機能の検証と各部門職責者による事業継続のための問題点抽出の検討を行い、午後は約60名の模擬傷病者に対しての多数傷病者受入れ訓練を行いました。また、同時に利根沼田広域消防本部による土砂崩落による救出救助訓練も合わせて行われました。

今回は利根沼田保健福祉事務所による視察を頂き、来年度からの総合的な訓練を目指して行きたいと考えています。



トリアージセンター



救助訓練

闘魂外来開催

10月19日～20日にかけて医学生向けの臨床実習企画である【闘魂外来・闘魂祭】を開催しました。総勢44名の研修医・医学生の参加があり患者さんにご協力をいただきながら指導医監督のもと、医学生が外来診療実習を行いました。外来診療における鑑別診断を挙げるプロセスやその難しさなどを、実地を通して学ぶことも多く、臨床への意欲も高まったようでした。来年も多くの方のご参加をいただけるよう、企画運営も工夫して参ります。



闘魂外来 カンファレンス終了後にポーズ

医療安全交流集会



11月2日に群馬県民連医療安全委員会主催の医療安全交流集会を開催しました。「オフィス風の道」代表で非常勤医(皮膚科)の永井弥生先生を講師に「コンフリクトマネジメントとアンガーマネジメント」をテーマとして、106名が参加しました。「心の奥にある不安や不満が怒りとして表出される」や「怒りのコントロールには6秒待つ」など多くのフレーズをメデイエーションの画像と共に学びました。

きらめき トピックス

人生会議研修会

11月9日、公立富岡総合病院副看護部長の津金澤理恵子氏を講師に招き、組合員さんと職員による合同研修会「人生会議～もしバナゲームを通してACPについて学ぶ～」を開催しました。40名が参加し、講師による分かりやすい講演と「もしバナゲーム」をとおして、一人ひとりの価値観の違いや、事前に医療者や家族と話し合うことの大切さ、医療者として普段の何気ない会話の中から、その人の価値観や死生観を聞きとり書き留めておく事の意義についてなど、学びの多い研修会となりました。



アドバンス・ケア・プランニング(ACP)講演会について

11月16日、地域住民を対象に医療講演&懇談会を行いました。今回は総合診療科医長・比嘉先生が「人生会議～アドバンス・ケア・プランニング(ACP)～」をテーマに講演を行いました。

近年、自らが望む人生の最終段階にどう向き合うかが話題を呼んでいます。『終活』『ACP/人生会議』などと認知度は高まりつつありますが、まだまだ家族と話題にする機会は少ない様子です。今回のよう



な機会をきっかけに、より多くの方に『自分らしく生き抜くこと』を考えるきっかけになればと思います。

参加者からの質疑応答